

MTB-O 世界選手権報告

----- 大北 洋平 -----

■ MTB-O とは

MTB-O(マウンテンバイク・オリエンテーリング)とは、文字通りマウンテンバイクに乗りながらオリエンテーリングをする競技である。競技自体の歴史は浅いと思われるが、ヨーロッパでは既にワールドカップが開かれており、盛んな国では毎週日曜日にはどこかで大会が開かれるらしい。それに対して、日本での歴史は浅いのも何も、今年始まったばかりである。そんな中で、自転車競技王国フランスにおいて第1回世界選手権(MTB-O WOC)が開かれることとなり、日本から合計9名の選手団が参加した。

■ フット-O との違い

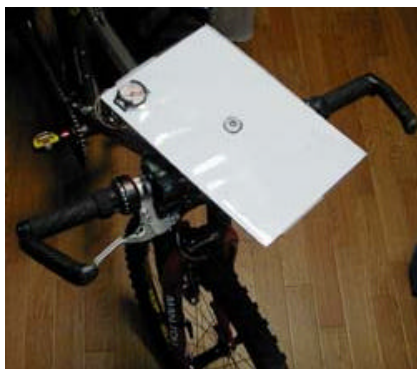
MTB-Oはフット-Oと違い、道や小径の上しか移動できないし、コントロールも道の上にしかない。従って「まっすぐ、分岐を右、十字路を右、左…」といったデジタルなオリエンテーリングが中心となり、このあたりはSKI-Oと同じと思われる。もちろん、道だけの2次元的な情報だけでなく地形を読むことも、より正確で速いオリエンテーリングをするのには必要となる。ポイントとなるのは「フット-Oでは経験できないような高速移動下(特に下り)でのナビゲーションが必要となる」とことと「スピードに差がありすぎるため

距離感が掴みにくい」と言うことである。前者は特に地図を手に持って競技できないことが大きく影響している。MTB-Oではマップホルダ(写真)と呼ばれる器具に地図をセットして競技する。両手は当然ハンドルを握っているわけだから、サムリーディングが不可能となり、地図上での現在地の把握が難しい。また不整地を走行する為、振動が激しく、情報を読み取るのに苦労する。このため、頻繁にマップコンタクトを取らないといけないのだが、そうするといわゆる「よそ見運転」状態となり、路面状態を見て走れないというジレンマに陥ってしまうのだ。特に下りを走行しているときはスピードが極端に上がり、路面に気がついていないと転倒する危険性が高い。さらに分岐などのチェックポイントも見逃しやすくなる。フットなら分岐を過ぎて10秒後に気付いたとしてもせいぜい100mもオーバーランしていないであろう。これが自転車ならかなりの距離をオーバーランしてしまうことになるし、上り返しによる体力的なロスも大きい。また、後者の「距離感の掴みにくさ」も

オリエンテーリングのリズムを狂わせる。ただ、フット-Oで歩測を用いるように、MTB-Oでもサイクルコンピュータという計測器を使って距離を計ることができる(反則の様な気がするが、「ナビゲーションの補助」にはあたらないので使用可能らしい)。

■ 日本代表チームの結成

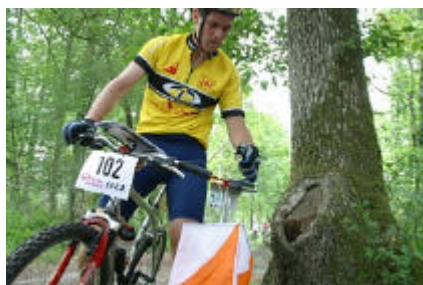
今回の日本代表チーム派遣の中心となったのは落合公也さんである。落合さんは5/12に富士「雨降山物語」で選考会を開き、代表選手を決定した後、監督として遠征の準備、合宿開催、WOCオーガナイザーとの事務的なやりとりまでほとんどをこなして下さった。代表選手は以下の8人である。男子：大北洋平・相川創・渡辺樹樹・内山雅文 女子：小寺喜子・藤原瑞穂・細谷みさき・伏見幸季子 このうち、オリエンティアが大北・相川・藤原の3人で、残りの選手はそれぞれトライアスロン、マウンテンバイク、山岳レースなどの世界で頑張っているなかなかのつわもの揃いであった。また、この8人のうちほとんどがアドベンチャー



▲ MTB-O 用マップホルダ



▲ MTB-O 世界選手権日本代表チーム



▲MTB-OではS Iパンチシステムを使用する（撮影：綾野真）

レースに出場したことがあり、ナビゲーション競技を経験したことがあるというのが面白い点である。選考会後はまずメーリングリストを作成し、連絡手段を整えた。次に合宿の日程を決め、それまでに各自が課題となるものを見つけて練習することにした。特にオリエンティアは自転車のトレーニング、そうでないひとは地図読みをしたり、近くで開かれるオリエンの大会に積極的に参加し、少しでも経験を積むことにした。またそれと平行してフランス遠征の準備（航空券の手配、自転車輸送方法の模索、現地での宿泊の確認など）に取り組み、さらに装備を提供してくれるスポンサーの獲得にも乗り出した。なんとこれだけの準備をわずか1ヵ月半の間にこなしたのである。選手一人一人が非常にエネルギーであり、また現状を把握しそれに対する行動を決めることが良くできていたからだと思う。

■ レースの評価

レースの内容、結果について詳しいことは報告書で述べたい（ので、興味ある方は購入して下さい）。男子は個人戦で top 比 140%~のタイムに落ち着き、順位も一番良いものを挙げても、クラシック予選 100 位（大北）・決勝 98 位（相川）・スプリント 78 位（相川）であった。またリレーでは2走の筆者が凡ミスを犯し、最下位に沈むと言う結果になってしまった。女子も個人戦では苦しんだものの、リレーでは男子とは打って変わって 9 位というすばらしい結果を残した。結果だけを見ると「世界の壁は厚かった」というお決まりの



▲最終コントロールを通過する筆者

セリフで終わってしてしまうが、全くのゼロの状態からチームを結成して創り上げ、フランスに渡って世界と戦えるようになるまでの過程を評価したいと思う。もう一つ言えることは「壁は確かに厚い、しかしよじ登れないことは無い」ということである。リザルトも上位とは大きな差があったが、中堅レベルとはそれほどの差が無く、またほとんど直線状に並んでいた。これはもう経験の差、練習量の差であり、克服できない差ではない。それを知ることができたのも大きな収穫であろう。

■ 今後に向けて

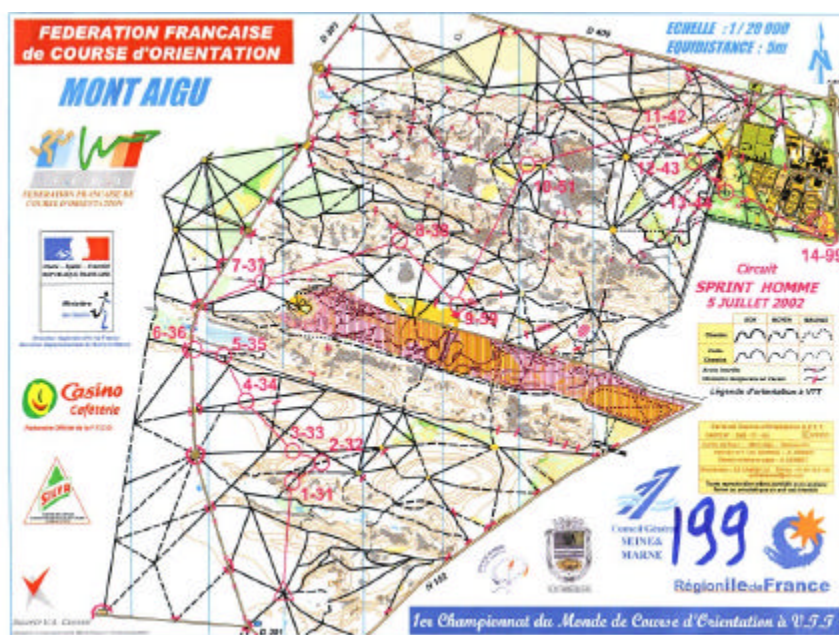
・層を厚くする … 次の世界選手権は2年後にオーストラリアで開催される。既に委員会が結成され、準備が開始されている。日本チームとしては今回代表になった選手はもちろん、さらに多くの選手が参加してくれること

が望ましい。アウトドア系アスリートの間でアドベンチャーレースの認知度が高まっており、MTB+オリエンテリング（ナビゲーション）という競技も注目されるだろう。もちろんオリエンティアの皆さんにも挑戦して欲しい。

・スポンサーの獲得 … 今回は本当にたくさんの企業やショップからユニフォームや自転車の装備品、サプリメントなどの援助を頂いた。これらのスポンサーは各選手が知り合いなどを通じて探してきたものである。今後もMTB-Oの活動を知ってもらい、協力してもらえる企業を開拓していくべきであろう。OL界ではあまりこのような風習は無いが、アドベンチャーレース界ではチーム単位でスポンサーが付いているというのは珍しくは無い。オリエンティアも「注目されない」と嘆くのではなく、自ら売り込みに行くくらいでないといいけないのかも知れない。

■ MTB-O を始めたい人に

まず、MTB を買いましょう。10 万円あれば普通のバイクが買えます（この時点で学生には厳しいか？）。ただし、普通の自転車屋で売っているMTBではなく、レース用のものがが必要です。買ったその店の人に、近くにある練習用コースを教えてくださいま



▲男子スプリントの地図。スプリントは1:15000、他は1:20000が使われた

しょう。あるいは店で簡単なツーリング会を企画したり、チームを作っているとあるかもしれません。それに参加したりして練習を重ね、普通にMTBに乗れるようになったらレースに出しましょう。残念ながら日本ではMTB-Oの大会はほとんど開かれていませんが、似たようなものとして、

1:25000の地形図を使ってラリーを行う「とれとれバイク」という競技が行われています。(日曜日にやるのでオリエンと重なるかもしれません。)現状では、このとれとれバイクが一番の練習機会です。恐らく今回の日本チームの選手もとれとれバイクに積極的に参加するでしょう。また、今後も日

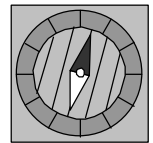
本代表チームのメンバーで年数回の合宿を開こうと考えていますので、その合宿に参加するのもいい方法です。詳しい情報はweb上で発表されると思いますので、興味のある方はこまめにチェックしておいてください。■

MTB-O Japan のページ <http://ha8.seikyou.ne.jp/home/Sou.Aikawa/>

とれとれバイク実行委員会 <http://www.aa.alpha-net.ne.jp/kittaj/>

Orienteering Explorer

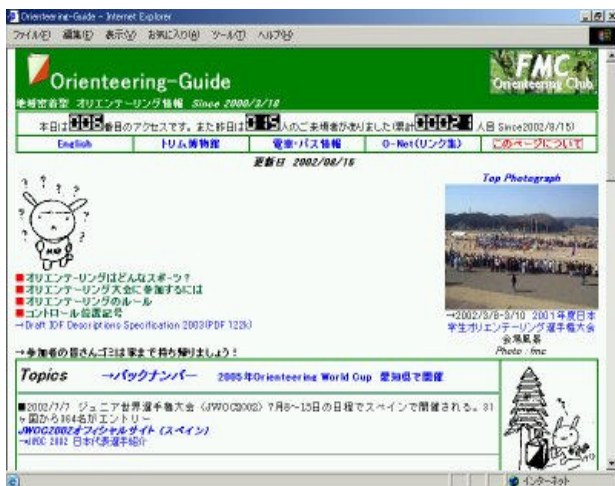
Internet Site Picking, Produced by Orienteering Magazine Project



Site #7: FMC「オリエンテーリングガイド」<http://members.jcom.home.ne.jp/hisakazu-s/>

今回から、地域クラブのサイトを紹介していく。初回に取り上げるのは、地域クラブとしては異色の存在?の「FMC」のホームページ。東京農工大学OLCの卒業生を中心としているが、その活動は大学のOB有志という枠には収まらない、

「オリエンテーリングをしたくても仕事で忙しく情報が得られない人」をターゲットに、「ネット型オリエンテーリングクラブ」という業界初のコンセプトで98年にスタートしました。オリエンテーリングを知らない人にでも楽しめるようにするため、「オリエンテーリングって何」の番組に力を入れ、観光協会やWEBマガジンからも掲載依頼が来るまでになりました(管理人の白井氏)。



▲ FMC トップページ。多彩なメニューが魅力



この魅力は多彩な独自コンテンツ。筆者のイチオシは「トリム博物館」というオリエンテーリングユニフォームの展示ページ。

現在はいくつかの学生クラブに範囲が限られているが、以前本コーナーで取り上げた「地図の森」のように広範な調査を行えば、

姿を見るだけでどのクラブが分かるほど(?)の強力なデータベースができるに違いない。

その他、O-Net というオリエンテーリングに関するページのリンク集、オリエンティアのための電車・バス情報(大会時に必須の時刻表リンク集)なども充実。



文: 佐々木 順(サン・スーシ)
junkun@orienteering.com